○27番（髙木佐一郎君）〔登壇〕

議長の登壇の許可を得ましたので、私の一般質問を始めさせていただきます。多分私が午前中最後の質問者になるかというふうに思いますが、よろしくお願いします。

今回、私は２つの項目について通告をいたしております。経済の問題と、それから生活の問題であります。私が考えますに、武雄市政の次代、一番大きな課題というのは２つあるというふうに思います。１つは、業を起こすということが１つ。それから、もう１つは生活の質を確保するということだというふうに思います。

まず、第１の業を起こすということについて質問をしたいと思います。

業というのは、なりわいという言葉だそうであります。なりわいというのは、この仕事をすれば食べられるという、いわゆる飯が食えるという、そういうことだそうであります。この言葉、業というのはなりわいだというふうに教えていただいたのが、実は十数年前の先輩議員からであります。農業問題に大変造詣の深かった東川登の早田議員であります。あの方と一緒に行政視察に行きましたときに、２時間にわたって鳥栖から鹿児島までいろんな話をしてまいりました。そのときに、「髙木君、農業と言うけれども、農業ではもう飯が食えん。だから、あれは業ではなくなったんだ」ということを教えていただいたんです。そういう意味で、農業だけではなくて、今、武雄市を見ていると、業が本当に今、業として成り立っているのかどうか。そのことが大変不安でならないわけであります。

この点を考えて、武雄市の現状を考えて、ひとつ経済対策について考えてみたいというふうに思います。経済対策――対策という場合には２つあると思うんです。１つは、この場を乗り切れば、あとは何とかやっていける。だから、今この危機を何とかしなきゃならんという目の前の危機。それから、もう１つは、武雄市の場合ですけれども、地域全体として徐々に徐々に衰退をしている。いわゆる忍び寄る危機といいますかね。目の前の危機と、それから静かに忍び寄ってくるそういう危機の２つがある。行政はこの２つに対応しなけりゃならんというふうに思っております。

そこで、まず聞きたいのは、今日の急激な景気の停滞、そして地域経済の陥没という中で、特に景気対策、雇用対策について、どのような事業の展開をしていこうとしているのか。そして、その具体的な有効性をどのように判断をしているのかというのをお聞きしたいというふうに思っております。

浦議員のほうから高齢者世帯に対して火災報知器のお話がありました。実は、つい先日ですけれども、別の方から同じことを提起を受けました。今回の火災報知器は２つ意味があると思うんです。１つは、火災報知器の調達に町の電器屋さんを通して、それを調達する。地域的な経済の循環ということだと思います。もう１つは、先ほど浦議員が評価されたように、やはり消防団がそういう家庭に行って、ずうっと配付をし、設置をしていくという、そういう２つの面があるというふうに思うわけであります。ですから、この火災報知器の設置につ

いては、私のところにもいろんな意見がありますけれども、全世帯でもよかったんじゃなかろうかというぐらい、それは大変大きな評価になるのではないかと思うわけです。金額的にいくと、何千万円、何億円の事業ではありませんが、そういう意味では具体的にやはり目の前の危機に対応していく、そういう事業の１つではないかというふうに思って評価をいたしております。

そういう意味で、具体的に今、武雄市がこういう景気対策とか、あるいは雇用対策について取り組みをしてきた具体的な事例をぜひ紹介をしていただきたいというふうに思います。

次に、もう１つ、やっぱり忍び寄る危機というのがあるわけでありますので、これに対する対応、対策、方針をどのように持っているのか。これについてお尋ねをしたいと思います。特に農業、それから商業、工業。業というのが、今、武雄市として本当に成り立っていけるのか、それで飯が食えるのかどうか。その分について、どのような大きな方針を持っておられるのか、それについてお尋ねをしたいと思います。

それから、先日の新聞を見ておりましたら、唐津市では経済についての経済短観を定期的に発表するというふうな新聞報道があっておりました。経済短観というと、国の経済企画庁ですかね、（「日銀」と呼ぶ者あり）ですかね。あれが具体的にしておって、市段階レベルではそういうことは余り聞かないというか、初めてであります。経済短観というと、現状の分析、経済の動向を含めた分析が中心になろうかと思うんでありますが、武雄市としては、この辺の考えについてはどういうふうにお持ちなのか。いろんな経済の対策をする根底には、やはり分析というのが今現在どうなっているのか、どういうふうになっているのかという、その分析というのが必要だというふうに思うわけでありますので、そういう面で経済の分析、唐津市の経済短観について、市長はどのように考えてあるのか、この点についてもお尋ねをしたいというふうに思います。

○議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

○前田営業部長〔登壇〕

それでは、まず私のほうからは、今までの状況並びに取り組みについて説明したいと思います。

先ほどの雇用につきましては、依然として非常に厳しい状況がございます。ハローワーク武雄管内ですが、有効の求人倍率が今現在0.38ぐらいになっております。これが前年の今の時期が0.58ですから、下がっているということで、それから全国ベースで申し上げますと、今現在が0.42ということで、昨年が0.89ということでかなり落ち込んでおります。そういうことで、ハローワークの資料も１つ紹介しますと、いわゆる派遣労働者、非正規労働者の雇いどめですか、それが昨年の10月からことしの９月まで１年間で、県内で見ますと2,142名いらっしゃるということで、これについてはハローワークの話ではことしの４月ぐらいでは

落ちついたという状況でございますが、そういう厳しい状況がございます。

そういうことで、武雄市として具体的に取り組んでいるものとして、いわゆる国の緊急雇用対策、これにつきまして今取り組んでいます。21年度で申し上げますと、年間で74名の新規の雇用を見込んでおりまして、これが事業費で約１億1,000万円でございます。これについては22年、23年ということで、民主党政権に変わっても力を入れるということでございますので、これについては来年度以降も要望をしていきたいというふうに考えます。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

今後について、私から答弁をいたします。

農業、商業、工業の業というのは、確かになりわいだと思っております。そこで、じゃあ、行政ができることは何かといったら、大きく２つあると思うんですね。１つは、将来的に武雄市に住むことが非常にいいという夢を語って、市民の皆さんたちが、ああ、そうなんだなと、あるいは県民の皆さんたちがそうだということ、これを語るのは市長――リーダーのリーダーシップだと、ワンマンではなくてリーダーシップの一つの大きな仕事だと思っております。これを体現できるかどうかが、首長の役割だと思っております。これは古川知事ともよく話をしている次第であります。

そういったことで、今、私が直接評価をいただいておりますのは、議員の視察であります。今全国津々浦々の自治体から見えられて、私も一番意外だったのは、評価されているのは、武雄市は元気があると。それと、武雄市は将来的に夢があるということを部外者の方がおっしゃっていただきますので、そういう夢を引き続き語っていく必要があるだろうと思っております。そして、マルクスも言っておりますけれども、その中で大事なのは株経済であります。

じゃあ、どうするかといったことについては、私としては大きく２つ。１つは病院であります。この病院が新たに今度バイパス沿いにできることによって、直接の経済効果、間接的な経済効果を生むというふうに思っております。これは私どもとしても具体的にまとめてまいりますけれども、例えば雇用であります。今まで県外に出られておられた方々が、若い方を中心として、その雇用が病院に直接発生する。そして、病院と取引をする企業、団体の雇用にも影響をします。その雇用があることによって所得が生まれ、その所得で農業、商業、工業の下支えをしていくという経済的な循環型の社会を目指したいと思っております。

そういった中でもう１つ、観光であります。今、武雄市はおかげさまで観光客そのものはふえております。来年の２月をめどになりますけれども、フジテレビドラマ――これはサガテレビで放映されますけれども、「がばいばあちゃん２」がまた放映をされます。そうなっ

てくると、ただでさえ、この３年間で最低見積もって15万人の皆さんたちが川上の淀姫神社訪れられております。そういったことになると、またふえるということは、これは確実でありますので、そういった方々にいかに武雄市に滞在していただき、武雄市でいろんなものを買っていただくかということの具体的な方策も詰めていく必要があるだろうということを思っております。

そういった中で私といたしましては、さまざまに結びつくと。今まで武雄市はともすれば、それがいろいろ分断をされていたというのが率直な私の見解であります。それをうまく前向きに誹謗中傷ではなくて、結びつける。その役割が行政、なかんずく私の役割だと思っておりますので、今一定の効果が出てきておりますので、さらにそれを伸ばしていくということを思っております。

そして、最後になりますけれども、唐津市の経済短観につきましては、実は経済短観というのは日本銀行が定期的に（発言する者あり）――日本銀行でございます。――今の市況を見て、これからよくなるか、悪くなるかというのを判断していただいて、その差を日銀短観として出しているわけですね。これは世界的に見ても極めて重要な指標であります。今回、唐津市の経済短観は、観光客数であるとか、税収であるとか、さまざまな要素が出てきておりますので、一概にその日銀の経済短観とは比較できないと思っておりますけれども、私としては率直に言って、これはいい試みだと思っておりますので、多聞第一、まず唐津市の状況を見て、我々として真摯に取り入れるべきところがあれば、これは取り入れてやっていきたいなというふうに思っております。武雄市においては、これも全国で恐らく初めてだと思いますが、武雄市データブックというのを出しました。これは一部11月号の市報に載せておりますけれども、そういった中で、私たちとしても積極的に情報を公開し、提供をしていきたいと、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

27番髙木議員

○27番（髙木佐一郎君）〔登壇〕

経済の問題で１つ紹介をしたいのは、北海道の池田町、市長も御存じですよね。行かれたこともあるかと思います。あそこは、実は池田町というのはほとんど無名の町だったんですが、ワインを中心にしたまちづくりを始められています。そのときの町長の方が町長になられて、農業がほとんどだめになっていく中で地域として何をすべきなのかということで、山に入っていって山ブドウを見て、そこから山ブドウが生えればブドウもできるんではないかということでワインと、二十数年前に始められました。当初は大変な非難ごうごう、これがものになるんかということで、大変視線も厳しかったらしいんですが、今では町営のワイン城とか、いろんな産業で年間５億円ぐらいの経済的な事業になっているようであります。

今、私がそれを言うのは何かというと、町長さんが書かれた本を私がたまたま持っていた

もんですから、前からずっと読んでいたんですけれども、今回、武雄市に関していくと、レモングラスがまさに池田町のワインにかわるものになるのかなというふうに思っています。

先日、福岡市役所の前の広場で佐賀県の物産まつりというんですかね、各市町が全部集まって、いろんなイベントで佐賀県の物産をアピールするということをされていました。ちょっと私もどういうふうによその市町村はやっているのかなということで、見に行きたいということで、２時間ほどずっと見ておりました。小城市は小城羊羹、いつもの大体余り変わらんのですけれども、武雄市は場所が一番悪いところで、一番隅だったんですが、一応いろんな武雄市の物産を中心にＰＲ、販売をされていました。レモングラスを出されておりまして、これがどういう評価なのかなということで、ずうっと２時間ぐらい見ていました。それはサクラで一回りしてはお茶を飲み、一回りしてはと10回ぐらいぐるぐる回りよったんですが、そのときに感じたのは、30代ぐらいの若い女性の方、この方たちが非常にレモングラスに関心を持たれていて、物を買うだけじゃなくて、係員の人たちにいろんなお尋ねをされていたんですよね。そういう面でいくと、あ、この世代にはレモングラスというか、特に女性の30代、40代の方たちには非常に関心が高いんやなあというのが実感としてわかったわけですね。

そういう意味でいくと、確かに今は本当に先ほどの池田町のワインではないですけれども、一つ一つのものをやはり流通とか販売とか、そういう部分も出てくるかと思いますが、しかし、そういうのをやっていけば、必ずそこにはまってくる部分があるのではなかろうかというふうに思っています。ですから、レモングラスそのものは、私も飲ませていただいていますけれども、お茶と半分半分ぐらいしか飲んでおりませんけれども、そういう面では一つの突破口になるんではなかろうかと思うんですよね。たまたまそういうのがレモングラスだったのか、あるいはほかにもやろうと思えばできることがあるのかなというふうに思いますが、市長はその辺についてどのような総括といいますか、考え、見解を持っているのか、お聞きをしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私の市政運営の第１は、多聞第一であります。市長になる前に、最も調べたのが、幾つか自治体がありまして、その中の一番大きなのは池田町であります。池田町の国産ワインの開発、これも非難ごうごうでありました。その当時の町長さんが――やっぱりトップの役割というのは大きいんですね。町長さんが何を言っていたかといったことに耳を澄ませますと、10年後に判断をしてほしいということをおっしゃいました。自分の評価、あるいは池田町の評価は10年後の歴史が評価をするということであります。そして、もう１つおっしゃったのは、ワインを池田町がすれば、必ず注目を集めると。したがって、池田町はむしろワインよりもジャガイモです。あるいは、これは小池議員が詳しいと思いますけれども、砂糖の原料

になるテンサイ、さまざまなものをつくられていて、池田町の野菜というのは、ある意味、それでブランドになっていると。

ここで私が真摯に学んだのは、武雄市のレモングラスはある意味大きなきっかけだと思っております。言いかえれば旗艦産業。旗艦産業というのは、もとの産業ではなくて、フラッグシップですよね。旗振りのレモングラス。おかげさまで大きくマスコミにも取り上げられて、そして東京の伊勢丹であるとか、さまざまなところ、台北でもそうですけれども、取り上げられることによって２つ効果が出ました。１つは、武雄市に非常に注目が集まっています。「レモングラスのほかに何かなかね」ということが出ています。

特に先日、秀島課長と参りました台北でどういう現象が起きたかということを紹介いたしますと、もうびっくりしたとはレモングラスよりも武雄市のイノシシとイチゴ、これに関心が出ておりました。もちろんレモングラスも完売いたしましたけれども、私がびっくりしたのは、このきっかけがあったからこそ、武雄市のイノシシとイチゴに出たと。

だから、一つのきっかけとして次々に道を太く大きくするのが、私たちが考えている農業政策であります。レモングラスは一つの大きなきっかけであります。そういう意味で大きいのは、レモングラスということで非常にこれは賛成の方ばかりではありません。これは率直に認めます。しかし、さまざまな方がレモングラスを議会でも取り上げていただいたことによって、結果的にこれが宣伝になっているんですね。ですので、そういう意味からすると、もう第１段階は過ぎたというふうに思っております。レモングラスは私たちが思っている以上にもう大きく成長いたしましたし、恐らく２月を目途にレモングラスが新型インフルエンザに効くんではないかという数値結果も公表されるようです。

そういったことで、レモングラスがおいしいばかりではなくて、今度は健康、暮らし、命に、そっちのほうに直結していくように私たちとしてはやっていきたいと。それをすることによって、私としては全体の農業が盛り上がっていくというふうに信じておりますので、そこもよくＪＡの皆さんたちの意見、あるいは農業生産者の御意見を賜りながら共同歩調をとって進めてまいりたいと、このように考えております。そういう意味で、髙木議員と認識は同じくするものであります。

○議長（杉原豊喜君）

27番髙木議員

○27番（髙木佐一郎君）〔登壇〕

私も含めてですけれども、武雄市の方、口癖が１つあります。それは何かというと、「武雄は何もなかもんね」と言われるんですね。でも、そんなはずはないですよね。何もないんじゃなくて、あること一つ一つにやっぱり自信を持たなきゃいかんというふうに思うんですよ。

先ほどリーダーシップの話をされていました。ここでこういうふうに言ったらいかんかも

しれんけど、佐賀県どこでもそうなんでしょうけれども、武雄市はある面では、たたいて育てるということは知っているんですよね。しかし、褒めて育てるということを知らないということがあります。今、大変経済的にも厳しい状況の中で、たたく項目というのはいっぱいあるんです。でも、今必要なのはやっぱり褒めて育てるということだろうというふうに思うんです。何でも、人材でもそうでしょうし、いわゆる産業、職員さんでもそうだと思います。ですから、ぜひ市長は、ワンマンだとか言われているという話を、私は聞きませんけれども、やはり今、必要なのは人材でありますので、ぜひ褒めて育てていただきたいというふうに思います。

といいますのは、池田町は一番最初、町長はそう思って何をしたかというと、職員をいきなりドイツに２年間留学させているんですよね。全面的におまえに任せる。だから、行って、そこで勉強してこいといって２年間留学をさせて、ＡＢＣをして、そして地元の池田町でワインづくりをする。ところが、やっぱり失敗するんですよね。何度も失敗するんですよ。ワインにならなかったり、いろいろする。それでもその町長はずっとそれをバックアップして育てていくということをされている。そういう面では、ぜひ武雄市の市政の軸には褒めて育てるという、そういう気風といいますか、市役所の気風を育てていただきたいと思います。

それでは、新産業の創出支援についてということでお尋ねをしたいと思います。

北方に新しい工業団地が造成をされます。いよいよ事業費もつきまして、スタートをするわけであります。問題は、どういう職種、業種をそこに誘致をしてくるのかという中身がやっぱり重要になってくるかというふうに思います。経済の動向がこれだけ変われば一番大きな工業的なものというのは何があるのかというのはちょっとわかりませんけれども、１つ考えるのはやっぱりエネルギー関係のものだというふうに思います。

今、若木の工業団地があそこに来て十数年たちますけれども、一番大きな豊田合成が若木の工業団地に進出をされました。最初は車のハンドルとかバンパーとか、そういうプラスチック成型が重点でしたけれども、やはり組み立て工場に一番近いところが、輸送コストの関係があるからということなんでしょうけれども、そちらのほうに重点が移っていって、じゃ、その後何をするのかということで注目しておりましたら、発光ダイオード関係をぜひこの若木の工業団地でやりたいということでありました。大変喜んでおりました。

しかし、なかなか経済状況も含めてでしょうけれども、投資が具体的になっていかなかったということがあるわけでありますので、今、若木の工業団地、特に豊田合成の発光ダイオードとその他についてどういう状況になっているのか、この点についてお尋ねをしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

伊藤営業部理事

○伊藤営業部理事〔登壇〕

豊田合成の現状について報告をしておきます。

昨年の経済危機に伴いまして、ことしの３月に組織再編がなされております。武雄工場に従来ありました車部品の製造部門は福岡へ移転、武雄工場につきましては、議員おっしゃるとおり、発光ダイオード事業に特化をされている現状でございます。

現在は、正規従業員数が70名、それと派遣社員が53名の合計123名が雇用をされている状況でございます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

今後について、私から御答弁申し上げます。

大田前副市長並びに古賀副市長の尽力で、来年２月にここの豊田合成でありますけれども、数十億円の追加投資をいたします。そこで、クリーンルームの建設が予定をされております。さらに生産設備を導入しながら、発光ダイオード部門の強化を図る予定と、非常に明るいニュースを聞いております。2012年度には雇用人数300人規模になると聞き及んでおります。この件に関して、詳細につきましては、12月９日、豊田合成の松原会長が――お世話になっておりますけれども――私のところに直接この旨の説明をしたいということで事業展開を説明されるというふうに聞き及んでおります。

これの効果は雇用の確保もさることながら、大規模な設備投資になりますので、固定資産税を含め、法人市民税の税収増につながってまいります。この税収増をもって、私としては社会の弱い立場にあられる方々に明るい光、そういった意味での予算措置をぜひしていきたいと思っております。生活者第一を唱え、私としてはこういった企業誘致も連関をさせていきたいと、このように考えております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

27番髙木議員

○27番（髙木佐一郎君）〔登壇〕

大変明るい話であります。大変うれしく思います。やっぱり私も議員になりましたときに、まだあの工業団地は造成中でありまして、委員会で豊田合成の本社並びに工場まで見学に行きました。名古屋まで出向いていって、そのときにいろんな――当時は工業用水をどれだけ売るかということが軸でしたので、そういう話を中心にさせていただいたんですが、その後、業態の変化もあるようであります。発光ダイオードというのは大変将来性のある業種でありますので、大変うれしく思いますし、数十億円の追加投資ということになりますと、地域的にも大変明るい話題にはなるんではなかろうかと思います。

それで、あと北方の工業団地の分です。つくるということについて、つくるのはもう着手

をするわけですけれども、あと中身をどういうふうにするのかというのは考えているのかどうかですね、その点についてお尋ねをしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

伊藤営業部理事

○伊藤営業部理事〔登壇〕

宮裾地区の現状でございますけれども、現在、実施設計中でありますので、分譲価格について決定をしておりません。この分譲価格にある程度のめどが立った時点において、県企業立地課と最新の企業動向について協議をしたいというふうに考えているところでございます。

市としましては、雇用型企業を中心として誘致をしたいということで考えておりまして、こうした希望の上に立ちまして業種選定を行い、企業誘致の活動に取り組んでいきたいというふうに考えているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

27番髙木議員

○27番（髙木佐一郎君）〔登壇〕

具体的には県の企業立地、県営工業団地ですので、県が中心になって動いてもらうわけでありますけれども、やはり武雄市としてもこういう方向でいきたいということは考える必要があるというふうに思うんです。鹿児島ですかね、いろんなところで進出してきた企業が今の経済状況の中において撤退をしていくということがあって、大きな地域問題になっておるところがいっぱいあります。そういう面では、やはり業種の選定も極めて将来的な見越しをしながらしなきゃいかんというふうに思うわけでありますので、この件については十分考慮をされて、県と協調して進めていただきたいと思いますので、市長も何らかの考えをお持ちだと思いますので、これは夢と言ったらいかんですけれども、将来的な展望を含めてどのように考えてあるのか、お聞きをしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

基本的にやっぱり国の政策というのはすごく大事だと思うんですね。今、民主党政権がおっしゃっているのは、CO_2の25%削減、これは今、コペンハーゲンでＣＯＰ15が行われておりますけれども、これをいかにビジネスに転用するかということが大事だと私自身は思っておりますので、恐らくこれからの企業対応というのは、例えば車であっても、ハイブリッドであったり、電気自動車であったり、そういったところが進むと思います。ですので、私としてはＣＯＰ15、あるいはCO_2の25%の削減は、これは企業としてもかなりやらなきゃいけないといったことから、その環境に配慮した部品、あるいはそういった企業、事業団が今後進出を希望されるんではないかなというふうに認識をしております。

その上で、ぜひ私どもとして申し上げたいのは、雇用の確保であります。やはり雇用なくして、私としては生活者第一というのはあり得ないと思っておりますので、ぜひ雇用、これを短期ではなくて、中・長期的な雇用が確保できるような産業、そういったことになると、相関連いたしますけれども、やはり環境系の企業というのが多分第一に上がってくるのではないかなと、ぜひ上がってほしいというふうにも思っておりますし、これは別に自動車産業とか含めて、私はそういうふうに思っております。

それと、もう１つ。恐らくこれは夢でありますけれども、これから必ず健康であるとか、命であるとか、そういったところに今よりも前向きに取り組んでいく企業がふえてくると私自身は思っております。幸いにして、恐らくこれは多分西九州随一になると思いますけれども、新武雄病院がその近くに設置をされます。そういったことになると、ぜひ医療関係、あるいは介護、福祉、そういった人の命、健康に直結した部品、製品をつくる企業の誘致も考えていきたいというふうに思っております。それをすることによって、また武雄市の全体的なイメージを上げて、さらにさまざまなところから企業誘致、企業立地を進めていきたいと思っておりますので、これはまた大きなきっかけになると思います。

そういう意味で、ああいったすばらしい場所を提供していただいた北方町の宮裾、そして川上地区の皆様方に深く感謝をしておりますので、皆様方のこれはある意味、犠牲というふうに言いかえてもいいかもしれません。それが本当に夢に結実するように、ぜひ私自身も微力でありますけれども、力を尽くしてまいりたいと、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

27番髙木議員

○27番（髙木佐一郎君）〔登壇〕

大変すばらしい。すばらしいというか、私も実はそういうふうに思っていました。やはり今からは健康――病気、医療も含めてなんですが、医療と健康ということが大きな社会的なテーマになっておりますし、また今後も同じような状況になるというふうに思います。ですから、いわゆる健康産業というのは何も機械の関係だけではなくて、やっぱり化学といいますか、薬、薬品とかを含めて出てくるんじゃなかろうかと思いますので、ぜひその方向で頑張っていただきたいというふうに思います。

それでは、次に、市民生活の向上ということに入ってまいりたいと思います。

市民生活の向上という一般的に考えると、自分自身の生活を含めてそうなんですけれども、やっぱり高齢化の中で、なかなか地域自体の活力が落ちてくるわけであります。今、私も含めて周りを見てみますと、衣・食・住という分については一定の水準は、やはり達成はできている。ただ問題は、今から経済的な動向も含めて、どうこれを維持していくのかというのが一番大きな問題になろうかというふうに思います。

これは教育長にも、この前ちょっとお話をしたかもしれませんが、実は私が住んでおりま

す川良区ですけれども、川良区に大阪から若い方が御夫婦と子どもさんが家をつくって見えました。その方は伊万里のＳＵＭＣＯの研究職で、今度、研究部門はこっちに全国集約をされるということで、大阪のほうから移ってみえたわけですよね。どうして伊万里に家をつくらなかったんですかと聞いたら、その方がおっしゃるのは、実はこの武雄を決めたのは娘が決めましたと。周辺もずっと見て回ったんですが、なぜ武雄を決めたか、それも武雄の川良に決めたかというと、実は娘がブラスバンドをやりたいと。いろいろ見ていて、ブラスバンドの一番ちょっとレベルが高い――ということですけどね。武雄中学校のブラスバンドが非常にいいということを聞いて、じゃ、そこの中で探そうということで、また武雄中学校区の中で探されて、たまたまそこがあったということを言ってありました。

ですから、私はそのとき――武雄中学校は確かにブラスバンドが活発ではあります。しかし、そういう面で評価を受けて、ここに来るというのは本当に、私もきょうの朝は大変教育長も残念な報告をしなきゃならなかったんですが、一方ではそういう高い評価をいただけるということもあるということです。ですから、文化水準といいますかね、それが１つの大きな生活という部分では、質という意味では大切ではなかろうかというふうに思います。

それで、文化的な部分についての質問をするわけですけれども、先日、武雄町のまちづくり協議会の主催で、桜山の散策会がありました。市長もお見えになっておりました。ちょうど紅葉の一番きれいなときでありました。結局それは何かというと、武雄町のまちづくり協議会が桜山の散策道路を整備しようということで、市からの交付金を原資にボランティアでされております。ここに武雄町の議員の皆さんもいますが、みんなも参加をして一緒に取り組んだその成果を見たわけであります。

武雄市の産業の柱は、１つは先ほどおっしゃいましたように観光であります。観光といった場合、何があるかというと、やっぱり温泉だと思うんですよね。その温泉も温泉だけではなくて、何かプラスアルファが必要になるというふうに思うんです。そういう面でプラスアルファの一番大きなものというのは何かというと景観だというふうに思います。

市は、樋渡市長がスタートして、景観の問題については大変力を入れて発言をされていました。具体的な形として景観条例ということで武雄市もつくるということをよそに先駆けてされています。

景観ですけれども、景観はだれが見ても共有の財産ですけれども、その財産の裏には私的な私有財産との関係もあって、なかなか市民の合意というのは難しいところもありますが、しかし、そういう面ではやっぱり景観条例をつくって、武雄市の景観を特に市内中心部とか、山内も含めた景観をつくっていこうというふうにされておりますので、この景観条例をつくられて、その後、具体的にどういう方向で今進めようとしているのか、これについてお尋ねをしたいというふうに思います。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

議員おっしゃるとおり、確かに景観条例を策定いたしました。それで、その景観条例でもって、今、まず啓蒙という形でやっているところでございます。この景観条例、まず高さ的なもの、規模もあるんですけど、それと意匠、それと色彩という形での今、景観条例の届出制度をつくっております。これもやっぱり皆さんの御理解が一番必要だというところで、温泉通りにつきましても、桜山が借景としてございますので、そこら辺、十分皆さんの御理解、そこを求めるためのまずＰＲをもっとしていかにゃいかんというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

部長答弁を補足いたします。

景観はやはり市民の財産だと私自身は思っております。市民が景観は財産だと思っていただくために、じゃあ、どうすればいいかといったことについては、それは市民みずからぜひ考えてほしいと思っているんですね。これは景観がすばらしいとか、すばらしくないというのは上から目線の行政の押しつけではだめだと思っております。そういった意味で、私としては本当に観光客が今ふえているようなところ、あるいは本当にこれは景観を大事にしたいところ、そういった中での協議、そしてその合意点をぜひ議論をしていただいた上で話し合ってほしいなというふうに思っております。

それの参考になるのは武雄市の中では、やはり山内町だと思っています。山内町は、サインを含めて非常に配慮をされております。黒髪山の周辺であるとか、宮野の黒髪神社の周りであるとか、非常の静ひつな状況が保たれていますので、それに沿って観光客の皆さんたちが今、山内でも多く見受けられているというのは、やはり景観が観光資源になっている証左だと私自身は思っております。

それともう１つ、景観で大事なのは、やはり外の意見をちゃんと聞くということだと思いますね。女優の石田ゆり子さんが武雄市にロケで見えられたときに、ちょっと市長さん案内してほしいと言われたので、こりゃ、光栄ばいと思って案内をさせていただいたときに、石田ゆり子さんが何に一番感動されていたかというと、若木の田園風景、麦畑、大豆畑でありました。何をおっしゃったかというと、これは本当に武雄の財産どころではなくて、日本の財産だと。そういった中で、あと永池の麦畑もおっしゃいましたけれども、石田ゆり子さん自身が、がばいばあちゃんの撮影のときに、ここで撮影をしてほしいということを監督にもおっしゃいました。そういった中で、私はそういった目の肥えた外部の皆さんたちの意見を十分に謙虚に聞く必要があるだろうと。それを踏まえて、自分たちの景観をどういうふうに保全するかといったことについては、私は先ほど申し上げたとおり、市民皆さんたちがぜひ

自分たちの問題として、課題として、財産として考えていく、そういうプロセスが必要ではないかというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

27番髙木議員

○27番（髙木佐一郎君）〔登壇〕

先日、青森県に新幹線の関係で行政視察に行きまして、そのときに商工も含めてというということで、浅虫温泉というところに泊まりました。行ったホテルはいわゆる小さな旅館に泊めていただいたんですが、そのときびっくりしたのは、そのときの仲居さんが８時から隣のホテルで津軽三味線のコンサートがありますから、ぜひ行ってくださいと言うんですよね。隣は大きなホテルでしたけど、私たちはその隣の小さな木造の昔風の旅館に泊まっていたんですが、そしたら、せっかくのお話でしたので、隣に行ってよかとやろうかと思いながらでも行きましたら、そこはそのホテルが中心になって周辺の小さな旅館とかをぜひどうぞと、一緒に見ましょうよという形で、そこを会場にしてされていたんです。私もあちこち行きましたけど、自分ところがするのによそからもどうぞというのは実は初めてだったもんで、ちょっとその支配人に聞いていたんですけど、何でこういうことをしよるんですかということを聞いたら、やはり地域、温泉としてのイメージ、一体的なものをせにゃいかんということでしておりますということでした。

武雄温泉よりも小さいぐらいの温泉地でしたけれども、朝行ったらびっくりしました。大型のバスが何十台と並んでおるんですよね。久しぶりやなあ、昔は武雄温泉もこういう大型バスの来よったもんにゃあとか思いよったとですけれども、たまたま紅葉のシーズンで十和田とか奥入瀬とか、そういうのに合わせてでしたんでしょうけれども、そういうことがあっておりました。

もう１つ気がついたのは、各ホテル、旅館、それから公共的なところの前には大きな木のオブジェをいろいろ置いてあったんですね。最初はちょっと気づかなかったんですが、ずっと見ていると、どこも玄関口にそういうオブジェがずうっとあるんですよね。何でかなと思って、それに注目して行ったら全部あったんですね。個人のお宅もそれなりに花壇みたいな木のオブジェ含めてしてありました。それは何か、棟方志功の記念館みたいなのがありまして、ああ、なるほど棟方志功だから、この木のオブジェをずっとしてあるのかなというふうに思ったんです。やっぱりそういう一つ一つの分は、現場に行かないとわからないことがあるですよね。行政視察で市役所に行ってから、こうしてお話を聞いてくるのも非常に役に立ちますが、やっぱり自分の目で歩いて、ずうっとチェックをしていかないと、本当に現場に行ってみないとわからないところもあります。ですから、景観を含めて、今、外の目というお話をされました。

市長、確かにそうです。武雄市は武雄市の人で判断するんじゃなくて、よそからどういう

ふうに見られているのか、どのように感想を持たれているのかというのをチェックすると同時に、やっぱり武雄市の方もよそにいろいろ出ていく必要があると思います。特に企画とか観光とかいう仕事で行かれることもあるかと思いますが、やっぱり研修でどんどんよそに出して、いいところをずっと学ばせて、それを武雄市に持って帰ってくるという、そういうことも必要ではないかというふうに思っております。

政策部長に、ここで職員研修費はどのくらい出しよるかと言ったっても、準備しとらんというふうに思いますのでね。ただ、やはり机の上に座っておっただけじゃ絶対わからない。前、私も観光課は温泉通りに出せという話をしておりましたけれども、これはいろんな庁舎内の都合があるかもしれませんけど、机の上だけじゃなくて、やっぱり現場に行く。だから、市長がいろんなところに講演とかの講師に呼ばれたりするわけでしょう。一緒にやっぱり市の職員の人たちも順番で連れていって、よそもどんどん見させたらどうでしょうかというふうに個人的には思いました。そうすると、旅費についてはある程度カバーできるかなというふうに思いますが、その点について、やっぱり武雄市の観光、するために、どのように――基本的な考え方がありましたら、お話をいただきたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

全く同感であります。私が職員にお願いをしているのは、出張したときは必ず机の研修プラスアルファを見てきてほしいということを言っております。例えば東京で出張がある場合には、具体的に例えば東京駅を見てほしいと。あるいは巣鴨のとげぬき地蔵がある商店街を見てきてほしいということで、これはやっぱりよそを見るとそうなんだなということを職員の皆さんたちも思っておられるようです。したがって、私としては厳しい財政状況でありますけれども、そういった武雄市民にとって必ず還元できるような予算については、それはきちんと確保する必要があるだろうと思っておりますので、先ほど御指摘のありましたように、昔は私一人でいろんなところに行っていましたけど、今必ず職員をアテンドしてもらうことをしています。そういった意味で、単視眼じゃなくて複眼的な目線を大事にしていきたいと思っております。

そういった中で、今武雄市はいい傾向が出てきていると思います。それは、１つはことしの春から夏にかけて行われました武雄の温泉街の中での各旅館、ホテルが焼き物を展示されたと。ですので、温泉旅館と陶芸が組み合わさったということで、僭越な言い方になりますけど、これは非常に私自身は画期的な試みとして高く評価をいたして、私自身も一カメラマンとなって応援をしたりとか、さまざまなところで宣伝をしてまいりました。今後、そういった動きをやっぱり加速させていく必要があるだろうと思っておりますので、そういった意味で武雄市の未来は決して暗くないと思っています。

ですので、あとは継続が大事だと思うんですね。やはりせっかくいい試みでも２回か３回で終わると、やっぱりまた徒労感とか疲労感しか残りませんので、やっぱりしておられる方がやってよかったと思っていただくように、仕掛けていく必要があるだろうと。そして、私もいろんな長所、短所があるというのは認識をしております。行政的に今私が一番求められているのは、やはり広報だと思っております。首長が動けばいろんな新聞、テレビ、マスコミが取り上げていただくと。だから、非常にいいときだというふうに思っておりますので、市民の皆様におかれては、ぜひ私を利用してほしいと、活用してほしいということだと思います。現にきょうも議会が終わったら、新聞各社が私に取材をしたいと。今度、市長は何をやるのかということで取材があります。そういった中で、市民の皆様からこういったことを言ってくれと幾つか来ておりますけれども、ぜひそれを私を媒体として使ってほしいということを思っておりますので、それがひいては武雄市の元気の再生、元気の源につながっていくんではないかなというふうに認識をしております。

○議長（杉原豊喜君）

27番髙木議員

○27番（髙木佐一郎君）〔登壇〕

景観について具体的に２つだけ注文しておきたい。

１つは、やっぱりまちづくりの協議会、武雄町区長さんとか、公民館長さんとか、私どもも含めてですけれども、ボランティアを含めて、体を使って、あれだけの散策道路をつくりました。あれがスタートだというふうに思うんです。ですから、今後、ぜひ桜山については身内がほとんどですので、なかなか行政として手を出しにくいところもあるかと思いますが、これについては十分な対応をして、やはりこれを残すというか、次の世代に引き継いでいく大きなものとして活用、ぜひ対応していただきたいというのが１つ。

それから、もう１つは、これは都市計画というか、トイレの関係なんですが、景観とは直接関係ないんですけれども、トイレの分で白岩の競技場のトイレですね。あれは水洗化にはしていただいているんですが、場所的にも非常に問題があるということで、身障者団体からも御意見をいただきましたので、トイレについてはぜひ対応をしていただきたいと思いますが、この点についてはいかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

この白岩のトイレについては、さまざまなところで意見を寄せられています。いろんな集会をしてみても、個別にお話をさせていただいても、トイレの話はかなり上位というか多い部類に入って、みんなお困りです。今後の方針といたしましては、もうかなり老朽化していまして、５カ所あるうちに４カ所がかなり老朽化していますので、この改修をきちんと進め

てまいります。

その上で、先ほど御指摘のあった障がいをお持ちの方々のトイレの対応ということで、私としてはみんなのトイレをきちんとつくるということ、場所も含めて勘案をしたいというふうに思っております。

さらに加えて、私は武雄町の運動会にことしも出ました。そのときに思ったのは、やはり一般のときと、そういったイベントがあるときというのは、当然ですけどトイレの利用の頻度が違います。そういった中で、私としてはもう少し仮設のトイレをそういったところについてはきちんとする必要があるだろうと思っております。それに加えて、女性の方が大変お困りでありました。これはさきの議会でも答弁したかもしれませんけれども、女性のあの長蛇の列を見ると、それは私自身も非常に心が痛みましたので、ぜひ女性の方が割合的にもお困りにならないようなトイレということを考える必要があるだろうと思っておりますので、これについてはきちんと計画を立てて進めてまいりたいというふうに思っております。

白岩のトイレというのは、ある意味、武雄の玄関口だと認識をしておりますので、そういう整備を進めていきたいというふうに思っております。

〔27番「ありがとうございます」〕

○議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

○前田営業部長〔登壇〕

先ほど、桜山の整備のお話があっておりましたが、これについては、今までなかなか民有林とかそういう形で市が手入れをしていなかったというのがありますので、９月の議会で補正いただきまして、いわゆる国の緊急雇用対策で今発注しておりますので、例えば桜山であるとか、あるいは黒髪山の周辺とか、あるいは梅林の梅の剪定とか、そういうところを来年にかけて整備をやっていきたいと考えていますので、これについては今からよくなるというふうに考えています。

○議長（杉原豊喜君）

27番髙木議員

○27番（髙木佐一郎君）〔登壇〕

今まで樋渡市長は、点ということで一生懸命孤軍奮闘されてきた面もあるかと思います。しかし、せっかくここまで進めてきたことですので、ぜひこれを武雄市全体の面のほうに広げていただきたいというふうに思います。

最後の質問をします。

武雄町の公民館建設であります。これは武雄町の議員でしたらだれでも考えて言ってきたことでありますけれども、武雄町に武雄町の公民館がない。いつも公民館は白岩の文化会館の一角を借りております。私も石井市長のとき、それから古庄市長のとき、何とか建設をと

いうことで話をしてきましたけれども、今回、樋渡市長に改めてお願いをするわけですけれども、町の公民館建設についてどのように考えてあるか、このことについてお尋ねをしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これは、さきの武雄町のまちづくり推進協議会でも申し述べたことでありますけれども、今の武雄公民館については、現在、中央公民館との連携も密接にできる。あるいは場所そのものも非常に流用性が高いという場所だと思っております。しかし、老朽化が著しく進んでいたりとか、使用勝手が悪いとか、さまざまな問題、課題があるというのも認識しております。

そこで１つの案として私どもが提案をいたしましたのは、現在の武雄公民館を活用しながら、サブ施設として足りない分を武雄中学校の敷地内に新築することも考えられるという、できない理由よりできる理由を提案したところであります。その中で、これもさまざまなメリット、デメリットがあるようです。メリットといたしましては、社会教育の場を学校教育の中に置くことでいろんな協働が生まれていくと思います。しかし、あくまでも学校敷地でありますので、学校の授業に支障を来さないようにできるかどうかという課題も浮かび上がっております。

私といたしましては、よく教育委員会と連携をとりながら、市民、町民のいろんな声に耳を真摯に傾けてまいりたいと思っております。その上でいろんな意見を聞いた上で、早ければ来春には一定の整備方針を立てていきたいと思っておりますので、まず多聞第一、聞いて回りたいというふうに思っております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育部長

○浦郷教育部長〔登壇〕

基本的には、今市長がお答えになったことをベースにということで、教育委員会としては先ほどお話があったように、学校運営としてどういうふうな問題が生じてくるのかということをやっぱり研究をしていかなければならないというふうに思っています。

法的には規制というものはないというふうに思いますけれども、全国的にも幾つか例はあるわけですけれども、やっぱりつくる以上は有効的に活用できるということにならなければ、問題が生じるというふうに思っておりますので、十分な協議と検討をさせていただきたいというふうに思っています。

○議長（杉原豊喜君）

27番髙木議員

○27番（髙木佐一郎君）〔登壇〕

公民館というのは、歴代の公民館長さんだけではなくて、町民の一つの宿願であります。確かに現行でも十分機能はしていると思うんですが、やはり少しでもプラス、よりベターな方法をぜひ見つけて、中学校ということになると学校教育との兼ね合いが出てくるようでありますけれども、その辺は十分して、やっぱりよかったよねと言われるような方針を打ち出していただければ大変ありがたいというふうに思っております。

これをもちまして私の質問を終わります。